

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/7)

学部・学科	臨床心理学部・教育福祉心理学科	職名	教授	氏名	ルー 陸 ジェン 君		
学歴	昭和57年 7月 中国 江蘇師範大学 (現在名 : 蘇州大学) 外国語学部英語学科卒業 (英語学士) 平成元年 4月 富山大学大学院人文科学研究科研究生「平3.3まで」 平成 5年 3月 富山大学大学院人文科学研究科 (修士課程) アメリカ文学専攻修了 平成13年 3月 金沢大学大学院社会環境科学研究科 (後期3年博士課程) 国際社会環境学専攻、アメリカ文学コース単位取得満期退学 平成19年 4月 米国カリフォルニア大学・バークレー校エスニック研究科 客員研究員 (Visiting Scholar at Department of Ethnic Studies, University of California, Berkeley) 「平20.3まで」						
学位	平成 5年 3月 文学修士 (富山大学)						
専門分野	アメリカ文学 : 米国作家・ヘミングウェイの文学 ; アジア系アメリカ文学 英語教育 : 日本と中国における大学英語教育の比較・日本と中国の英語教員養成						
専門資格							
所属学会	平成 5年10月 アメリカ現代言語文学協会 (Modern Language Association of America) 平成11年 5月 日本ヘミングウェイ協会 (Hemingway Society of Japan) 平成11年 9月 日本アジア系アメリカ文学研究会 (AALA) 平成16年 6月 日本大学英語教育学会 (JACET) 平成20年 1月 アメリカヘミングウェイ学会 (Hemingway Society of America)						
受賞							
担 当 授業科目	学 部 英語リーディングⅠ・Ⅱ、英語リーディングⅢ・Ⅳ、英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ 英語リーディングⅤ・Ⅵ、小学校英語活動						
論文指導	該当なし						
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数			
	小学校英語活動	講義・演習・実習・実験	春・秋	28 名			
	授業の概要 : 初めてこの科目を担当するにあたって、将来の小学校教員を目指す学生のアクティブ・ラーニングの力を高めるために、教員の一方的な講義で行うのではなく、学生達に教科書のテーマごとにグループ発表をさせ、最後に教員のまとめと評価で修了するよう、学習者が自ら考え、創造する能力の育成を試みた。時には、全クラスで一つのテーマで (例えば、外国語教育を行う際に、発達段階を意識した指導を行うことが望まれる重要性について) グループディスカッションをしてから、ポスター発表の形式で発表させた。						
	1	教育活動の振り返り 教育活動の成果 : 学生中心の授業で、学生達が新しい科目と課題に対し自らの力で小学校英語活動の意味と重要性を事前に教科書から理解した上で、活発なグループディスカッションを経て互いの理解を確認し、更に発表の場で他のグループの考えを参考に、小学校英語活動授業指導に關しての自分のアイデア考案や実践に自信を持つようになった。アクティブ・ラーニングの実践ができ、実践能力がアップしたことを実感できた。 今後の課題 : 学生相互の質問や評価、最後の模擬授業の時間を、もう少し学生に与える工夫が必要。					
	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数			
	英語リーディングⅠ、Ⅱ	講義・演習・実習・実験	春・秋	約30名			
2	授業の概要 : 英語のリーディング技能やレベルアップのため、速読と精読の練習を通して、情報の把握や理解をした上で、発信力も向上するのが目標です。教科書の単語解説と練習問題の不足問題、学生自身の単語力や文法力の弱い傾向に対して、英単語と英文法の習得方法について強化訓練を行った。						

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2 / 7)

F D 活 動 ・ 教 育 実 績 つ づ き	教育活動の振り返り 教育活動の成果： 2 学生の発表グループ (3 ~ 4 人) で発表の役割分担を事前に決めさせ、1課ごとの重要単語を授業前に英和と英英両方の意味や、発音記号、解説並びに例文を事前に辞書で調べてリストアップし、文章の要約や背景、更にQuizも含めてPP原稿を用意させ、授業の前日までに教員がチェックした。発表グループがPower Pointによる発表後、クラス全員も自分の単語リストと合わせ再確認し発音練習をする。これによって、学生達の自習能力と皆の前で発表する力が高くなり、平常点の一部にも入れた為、学習意欲と成果が上がった。 今後の課題： 学生一人一人のケア、レベルが低い学生の特別指導も必要と痛感した。
	・ 学内外のFD関連講演会 / セミナー等への参加実績 2014年7月30日 (水) 13:00 - 15:30 (於 : 普照館F232) 「英語学習ソフトを用いたリスニング力の強化」というセミナーを実施した。当日は、リアル・イングリッシュ・ブロードバンド株式会社より栗林克樹氏をゲストスピーカーとして迎え、リスニング力伸長の面からリアル・イングリッシュ・ブロードバンド株式会社の開発した英語学習ソフトのデモンストレーションを行い、その効果を費用も含めて総合的に検討した。研究メンバーのみの小さなセミナーだったが、様々な実務的な質問もできて、今後検討の可能性のある新たなソフトウェアの可能性について、中身の濃い議論を展開することもできた。 2014年11月29日 (土) 龍谷大学大宮キャンパスで開かれた「JACET秋季研究大会のシンポジウム、 「授業外施設・プログラムを用いた大学英語教育改革」に参加し、以下の発表を聞いた。 a. 近畿大学の「英語村E-Cube」 b. 神戸学院大学の「図書館留学」 c. 甲南大学の「O-Zone」 三大学の教室外の施設利用で英語教育の改革プログラムは、三者三様でとても素晴らしい改革であった。 近年本学で行っている「English Corner」はまだ小規模だが、似た様な形で学生達に新しい英語学習の場を提供している点においては、大いに参考になり、これから更に教室以外の場で、多様な英語プログラムを考え、学生達に意欲をわかせる工夫をしていきたいと思った。 2015年3月5日 (木) に開催された京都文教大学第2回FD研修会「授業と評価をつなぐ為に ~ ルーブリック評価入門 ~ 」について。当日COC委員として参加したCOC事業の外部評価者の報告会と重なったため参加できなかったが、その後配布された資料を確認した。
	・ 教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 毎週水曜午後のオフィスアワーに、1・2年生の英語リーディングクラスの学生に対し、英単語調べの内容訂正や担当する教科書の内容発表、Power Pointの作成などについて助言を行い、学生の質問にも対応した。他に、英検やTOEICなどの資格試験についても個別指導をした。 海外留学経験のある学生達を中心に、学内の英会話クラブ「English Corner」を立ち上げてから4年目に入り、人数は10人以上になり、毎週水曜の昼に1時間以上の英会話活動を行った。英語圏の風習に合わせ、数回のパーティーも学内外で開いた。これらの取り組みにより、英語に興味を持つ学生や海外留学に行く学生が増えた。カナダの西海岸にある本学園短期大学の提携校であるThompson River's Universityへの夏期留学生が9名になり、またカナダの東海岸にある名門校McGill UniversityのSpring Break Immersionにも、二人の学生が参加した。事前にはEC活動で留学情報収集もした。 2014年5月からChinese Cornerも正式に立ち上げ、隔週水曜の午後に中国へ留学した学生達と中国から来た大学院留学生と共に、1時間以上の中国語会話練習を行った。10月から高齢者アカデミー生の一人も加わり、年齢差や文化の差異を超えた交流が盛んになった。両語学サークルの学生が、学内外の様々な国際交流イベントでも活躍した。

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/7)

H26 年度 研究課題	1. アメリカ文学の巨匠 ―ヘミングウェイの文学と政治 2. アジア系アメリカ文学、特に60年代生まれの若手作家と作品 3. 日本と中国における英語教育の比較「上海地区の小中高の英語教育現状と新人英語教員の研修の現地調査 ―日本への提言」(科学研究費助成事業・課題番号26370751) 4. 多様化する学生と英語教育研究プロジェクト (人間学研究所共同研究プロジェクト 2013年 -2015年)
平成二十六 (2014) 年度の研究活動の概要	1. に関しては、2014年6月22日から27日までイタリア・ベニスで開かれた「第14回ヘミングウェイ国際学会2014 in Venice」にて、”Hemingway and Anti-Fascism --- in his Seven Dispatches after 3-Month Trips in China”の題名で口頭発表をした。 また、12月14日(日)に、関西学院大学で開催された「2014年度日本ヘミングウェイ協会全国大会(第25回大会)のシンポジウム「ヘミングウェイを追ってキューバの中へ ―訪久研究者達のヘミングウェイ論―」に参加し、近年日米久が政治的にも学術的にも新たな段階に移行しつつあることと、キューバ博物館にあるヘミングウェイのキューバでの生活と作品の関係、また「老人と海」はどれくらいキューバ的な作品なのかに関して情報収集をした。 2. に関しては、国内外の研究出張の際に、図書館に立ち寄って関係資料の収集や、新しい作品及び研究データの講読などを継続的に行った。2015年3月14日(土)に、早稲田大学で開かれた「アジア系アメリカ文学研究会(AALA)の第117回例会に参加し、日系アメリカ人作家「藤田晃の「農地の光景」―移民法制定後の息子と父の親子関係をめぐって」と、「冷戦初期の人種政策と日系二世による朝鮮戦争参戦 ―From Internment to Korea, to Solitudeの分析を中心として」の二本の発表を聞いた。 3. に関しては、中国で最も優れている上海地区の小学校から高校までの教育現場の授業内容形式の調査と、新人英語教員の成長を縦断的に追跡することが研究目的である為、初年度は、小学校で英語教員として赴任初年度の教員1人と3年目の教員1人、中学校で英語教員として赴任して3年目の教員2人の合計4人の授業見学と詳細なインタビューを行うことができた。授業のビデオデータとインタビューの書き起こしデータを今後の縦断研究のベースラインデータとして用いる予定で、当初の計画通り量的にも質的にも十分なデータを収集出来た。 具体的には、9月16日から22日まで、共同研究者と上海師範大学の関連小・中・高等学校に「英語教育現状と新人英語教員の研修の現地調査」を行った。 16日(火)午前：(私立)上海市進才実験小学校にて、師範大英語師範専攻卒・教歴3年目の蒋超健(女・24才)先生の4年生の授業を見学。その後お昼を食べながら、懇談をした。 午後：(小中一貫公立)芦湾区教師進修学院附属中山学校にて、師範大英語師範専攻卒・教歴3年目の徐顧先生(女24才)の7年生の授業を見学し、新人研修や成長過程に関してインタビューもした。 17日(水)：(半官半民)上海市大寧国際小学校にて、教員1年目の季明鋒先生(女24才)の4年生の授業見学とインタビューを行った。(前年、当学生の卒業前のインターンシップ実習授業も見学をした。) 18日(木)：(公立)敬業初级中学にて、師範大英語師範専攻卒、教歴3年目の湯揚先生(男25才)の授業を見学し、その後インタビューもした。地元の経済的に恵まれていない層の子とも達が多いので、先生の熱心な指導ぶりに感心した。 4. に関しては、月一度共同研究メンバーの研修会で、選択した上・中・下3つのレベルの英語クラス(300人超え)を対象に実施したNetAcademy2の課外学習のデータの収集と分析を行い、レベルアップに繋がる効果的な学習方法を定期的に学生に指導し、研究論文を本学の人間学研究(紀要)Vol.15に掲載されると同時に、2015年8月末の大学英語教育国際大会でのポスター発表も採択された。 7月30日(水)13:00 - 15:30(於：普照館F232)「英語学習ソフトを用いたリスニング力の強化」というセミナーを実施した。(詳細はp.2 学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 を参照)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/7)

平成二十六年 (2014) 年度の主な研究成果等	(著書)
	(論文) 1. “Extracurricular English Study through ALC NetAcademy2 & the Results” (ALC NetAcademy2 による授業外英語学習の動機づけと、その効果)、共著、平成27年3月、京都文教大学人間学研究所 人間学研究Vol.15
	(学会報告、学会活動) 1. ”Hemingway and Anti-Fascism--- in his Seven Dispatches after 3-Month Trips in China” (口頭発表) 単独、平成26年6月、第14回ヘミングウェイ国際学会、イタリア・ベニス 2. JACET秋季研究大会のシンポジウム、「授業外施設・プログラムを用いた大学英語教育改革」(参加) 平成26年11月、龍谷大学大宮キャンパス 3. 「アジア系アメリカ文学研究会(AALA) 第117回例会」(参加) 平成27年3月、早稲田大学 4. 日本英語音声学会創立20周年記念事業「第5回英語音声教育研修会」(参加) 平成27年3月、沖縄大学
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	(調査活動) (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等) 平成26年度 - 平成29年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 (基盤研究C・一般) 「上海地区の小中高の英語教育現状と新人英語教員の研修の現地調査 ―日本への提言」(課題番号26370751) 研究代表者
	(学内活動) 教務委員会委員、国際交流委員会委員長、COC地域連携委員
平成二十六年 (2014) 年度 社会における活動	
平成二十一〜二十五 (2009〜2013) 年度の主な研究成果等	(著書)
	(論文) 1. “Depicting the Life as It Is —Secret-Revealing in Jhumpa Lahiri’s <i>Interpreter of Maladies</i> ”、(ジュンパ・ラリヒの短編小説集「停電の夜に」に見られる「秘密の打ち明け」という心理) 単著、平成22年3月、京都文教大学人間学研究所 人間学研究Vol.10 (pp.1-14) 2. “An English teacher training course at a Teachers’ College in China”、共著、平成23年10月、立命館大学大学院言語教育情報研究科・Studies in Language Science Working Paper第1号 (pp.5-10) 3. 「英・日・中のことわざで見る文化の相異 ―互いに似た表現を中心に―」(研究ノート) 単著、平成24年3月、京都文教大学人間学研究所 人間学研究Vol.12 (pp.29-36) 4. 「中国・上海地区における小・中・高校での英語教育調査報告書」、共著、平成24年11月、立命館大学大学院言語教育情報研究科・Studies in Language Science Working Paper第2号 (pp.1-18) 5. 「日本と中国における小学校英語教育の現状と課題」、共著、平成26年3月、京都文教大学人間学研究所 人間学研究 Vol.14 (pp.1-22)
	(学会報告、学会活動) 1. 「日本英文学会第81回大会」(参加) 平成21年5月、東京大学 2. 「大学英語教育学会 (JACET) 関西支部第4回春期大会」(参加) 平成21年6月、京都外国語大学 3. 「アジア系アメリカ文学研究会 (AALA) 20周年記念国際フォーラム」(参加) 平成21年9月、神戸女子大学

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/7)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等

(学会報告、学会活動 つづき)

4. 「第4回応用倫理国際会議」(参加) 平成21年11月、北海道大学
5. 「日本ヘミングウェイ協会 第20回全国大会」(参加) 平成21年12月、関東学院大学
6. 「アメリカ現代言語文学協会 第125回大会」(参加) 平成21年12月、アメリカ合衆国 (フィラデルフィア)
7. ”Hemingway’s China Trip and His Works” (口頭発表) 単独、平成22年6月、「第14回ヘミングウェイ国際学会」(14th Biennial Hemingway Society Conference in Lausanne, Switzerland 2010)、スイス・ローザンヌ
8. 「第38回JACET英語教育サマーセミナー」(参加) 平成22年8月、群馬県・草津セミナーハウス
9. 「日本ヘミングウェイ協会第21回全国大会」(参加) 平成22年12月、関東学院大学
10. 「日本大学英語教育学会第50回国際大会」(参加) 平成23年8月・9月、西南学院大学 (福岡)
11. 「日本アメリカ文学学会」および「日本ヘミングウェイ協会」(ワークショップに参加) 平成23年10月、関西大学
12. 「創基150周年記念イベント・アジア5大学フォーラム」(参加) 平成23年11月、金沢大学
13. 「日本ヘミングウェイ協会大第22回全国大会・20周年記念国際フォーラム」(参加) 平成23年12月、東京女子大学
14. ”Modern Language Association 127th MLA Annual Convention” 「第127回現代言語学会」(参加) 平成24年1月、シアトル (米国)
15. 「日本初『ヘミングウェイ大事典』の出版記念祝賀会」(参加) 平成24年8月、日本ヘミングウェイ協会主催、開催場所、学士会館
16. 「大学英語教育学会第51回国際大会」(参加) 平成24年8月、愛知県立大学
17. 「English Australia Conference 2012 in Sydney」(参加) 平成24年9月
オーストラリアにおける「外国人に第二言語としての英語教育」に関する政策や現状、将来への展望などの基本情報を収集し、英語教科書の大手出版社や英語学校の経営者、また、留学生の受け入れる業者との交流も出来た。
18. 「中国におけるヘミングウェイの受容を中心に」(発表) 単独、平成24年12月、シンポジウム「アジアから読むヘミングウェイ」(シンポジスト) 日本ヘミングウェイ協会第23回全国大会、関西学院大学大阪梅田キャンパス
19. 「あこがれのイギリス英語・発音セミナー」(参加) 平成25年2月、フロム・ゼロ、フロム・ゼロ銀座オフィス
20. 「RELC International Seminar」(参加) 平成25年3月18日～20日、シンガポール
21. “Insightful Portrayal of Immigrants’ Family in Jhumpa Lahiri’s Novel *The Namesake*” (国際学会・口頭発表) 単独、平成25年8月、ICSHH 2013 (2013 2nd International Conference on Society, Humanity and History (2013年第2回社会・人文・歴史国際学会)、バルセロナ
22. 「多様化する学生と大学英語教育の新たな取り組み」(国際学会・ポスター発表) 共同、平成25年8月、大学英語教育学会 (JACET) 第52回国際大会、京都大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

学術講演 :

1. 「日本語の勉強法と研究法及び日本文化や慣習について」, 単独、平成22年11月、外国語学院・日本語専攻の学生や教職員対象、上海師範大学

招待講演 :

1. 「日本語の中にあるカタカナと英語語彙及び発音の相異について」, 単独、平成23年9月、上海師範大学外国語学院・日本語専攻の学生を対象、上海師範大学

事典 :

1. 「雑誌記事 (第二次世界大戦中にアメリカの有力紙『PM』の特配員としてヘミングウェイが中国の戦場から送った4つの記事)」を編訳した。平成24年7月、勉誠出版社、『ヘミングウェイ大事典』(pp. 406-410)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/7)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)

書評：

1. “On Jhumpa Lahiri's *Unaccustomed Earth*”、単著、平成22年3月、アジア系アメリカ文学研究会紀要AALA Journal No.15 (pp.152-156)

報告：

1. 共同研究プロジェクト「多様化する学生と大学英語教育」、共著、平成26年3月、京都文教大学人間学研究所 人間学研究 Vol.14 (pp.105-106)

(調査活動)

平成21年度：

12月に米国のUC Berkeley大学にて、アジア系アメリカ文学の出版や研究の最新情報を収集した。
平成22年3月に、中国の上海師範大学を始め、他2つの大学にて最近の大学英語教育プログラムや教科書などについて研究調査をし、データ収集をした。

平成23年度：

1. 8月22日～28日まで、国際交流委員会による新規事業「米国協定校など訪問」に調査者として参加し、本学の留学・国際交流活動の活性化に向け、本学協定校並びに各種協定・交流候補校における情報収集と協議を行った。(対象校：米国シアトル大、カナダTRU大学など)
2. 国際交流委員会による新規事業「中国における協定候補校訪問」に調査者として参加し、本学の留学・国際交流活動の活性化に向け、新規協定候補校並びに著名な英中語学教育機関を訪問し、それぞれ情報収集と各種協議を行った。(対象校：香港中文大学、廈門大学、咸陽師範学院)
3. 米国テキサス州立A&M大学・Austin 校へ「外国人留学生への英語教育について」の調査、そしてA&M大学へ「本学臨床心理学部との提携更新について」学部担当者と国際交流担当者に訪問と懇談を行った。

平成24年度：

平成24年8月・11月 ヘミングウェイ研究の資料収集、於：国立国会図書館（東京）

平成24年10月 中国の英語教育歴史とヘミングウェイと中国旅の資料調査、於：上海市図書館

平成25年度：

平成25年 8月

米国文豪・ヘミングウェイの文学を代表する二つの作品：「日はまた昇る」と「誰の為に鐘が鳴る」に書かれたスペイン内戦及びスペインの闘牛と関わる資料の収集と現地訪問、於：スペインのマドリード・バルセロナ

現地調査による成果

1. 臨場感のある且つ刺激的な体感が出来た。
2. ヘミングウェイのスペイン内戦参加した経験や反戦主義に関わる資料、およびスペインでの受け入れられ方や評価を論文でまとめ、2014年6月の第14回ヘミングウェイ国際学会（於：イタリア・ベニス）にて、「ヘミングウェイと反ファシズム」の題で口頭発表を行う。

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)

平成22年度-平成25年度

科学研究費補助金（基盤研究C）「中国の大学での英語教員養成課程の現地縦断調査 ―日本への提言」（課題番号22520600）研究代表者

平成22年 9月 中国・上海

現地調査の許可と協力を得る為に、現地調査対象の上海師範大学・外国語学院へ。教務部長、学院長らに挨拶をし、担当教員と調査の事前打ち合わせを行った。

平成22年11月 中国・上海

研究分担者とともに再び同大学を訪問し、4年間の現地縦断調査の一環として、英語教員養成コース1年生の授業を中心に1週間の調査（授業見学、教員や学生にインタビュー、学習アンケート、TOEFL模試）とデータ収集（シラバスやカリキュラム）をした。

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (7/7)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含 つづき) 平成23年 9月 中国・上海 現地調査対象の上海師範大学・外国語学院へ、英語教員養成コース二年目の学生を中心に、授業見学、TOEFL模試、英語学習のアンケートや教員懇談などの資料収集。 平成24年 3月 中国・上海 再び上海師範大学へ学院長や担当教員に挨拶し、三年目(平成24年)夏に学生達の教育実習を視察できるような要請、それから現地継続調査の事前打ち合わせを行った。 平成24年10月 中国・上海 現地調査対象の上海師範大学・外国語学院へ、英語教員養成コース3・4年目の学生を中心に、中・高での教育実習授業をそれぞれ見学し、指導教員、実習担当学生との懇談や授業後の評価などを行い、教育実習の仕組みや実行方法などの資料収集も行った。調査結果は論文「中国・上海地区における小・中・高校での英語教育調査」で立命館大学大学院言語教育情報研究科の紀要に掲載された。(前述) 平成25年3月 シンガポール シンガポールで開催された「RELC International Seminar」に参加し、教員養成や英語学習評価などの最新動向について情報を収集した。 平成25年12月25日-1月5日 調査(最終年度)、於:上海師範大学 英語達成度を測るTOEFL模擬テストを4年間に渡って、英語師範専攻する学生らの得点は入学時点の509点から卒業年度に532点に、つまり23点の英語力が向上したことが分かった。詳細な調査結果はデータを分析後に報告をまとめ、4年間の科学研究費による報告として文部科学省に提出した。
平成二十一～二十五 (2009～2013) 社会における活動	(学内活動) 平成20年 4月 国際交流委員会委員(委員長「平22.4より」)「現在に至る」 海外出張助成調整委員会委員「平22.3まで」 平成21年 4月 人間学研究所兼任研究員(「日・中・英の諺による異文化の比較研究」)「平24.3まで」 平成23年 4月 公開講座委員会委員「平25.3まで」 平成24年 4月 自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員「平26.3まで」 学生委員会委員「平26.3まで」